

御堂筋の かたまり

絵・文 熱田親憲

陶磁器の歴史は人間の歴史

しまう傾向があったように思う。今回は陶磁器の基礎知識を得て、親しみをこめて鑑賞することにしよう。早速、「今日は読者の代表のつもりで、基礎的なことをお尋ねしたいと思っています」と話す、野村さんは「少しでも陶磁器に親しみをこめていただけたらうれいす」と気持ちよく応じてくれた。

「絵画などと比較して陶磁器・陶芸品の特徴は？」「基本的には実用品であるということです。もともとは使うために生まれたものです。まず、お気に入りの陶磁器を見つけて、何かを感じていただけたら。実物に接することだと思います」

「両者の違いは土と釉、それらに適した焼成温度にあります。陶器に用いる土は基本的にやや鉄分が多く、焼くと赤みを帯びた色となります。釉は各種の金属成分を加えて

く丈夫な器を焼くさまざまな工夫がされていきました。土の選び方や焼く方法です。大きな進化は釉の使用です。土器を焼く際に燃料の灰が器にふりかかり、土に含まれる

「厳密には土器、炻器、陶器、磁器となり、国により定義は微妙に異なります。陶器と磁器に限って比較するのであれば」と野村さんは前置きして、語り始めた。

「両者の違いは土と釉、それらに適した焼成温度にあります。陶器に用いる土は基本的にやや鉄分が多く、焼くと赤みを帯びた色となります。釉は各種の金属成分を加えて

物質と融合してガラス状の膜ができる現象をきっかけに生まれたと考えられています。釉の出現以降、さらに胎土・窯構造、焼成方法などに改良を加えてさまざまな種類の陶磁器が誕生することになりました」と一気に説明していただいた。「器の歴史が人間の歴史という感じですね」

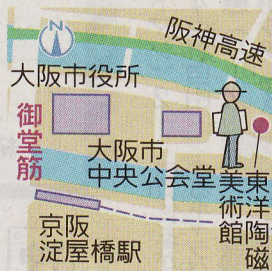
最後に陶器と磁器の違いを総括していただい

た。「厳密には土器、炻器、陶器、磁器となり、国により定義は微妙に異なります。陶器と磁器に限って比較するのであれば」と野村さんは前置きして、語り始めた。

「両者の違いは土と釉、それらに適した焼成温度にあります。陶器に用いる土は基本的にやや鉄分が多く、焼くと赤みを帯びた色となります。釉は各種の金属成分を加えて

た。「厳密には土器、炻器、陶器、磁器となり、国により定義は微妙に異なります。陶器と磁器に限って比較するのであれば」と野村さんは前置きして、語り始めた。

「両者の違いは土と釉、それらに適した焼成温度にあります。陶器に用いる土は基本的にやや鉄分が多く、焼くと赤みを帯びた色となります。釉は各種の金属成分を加えて



た。「厳密には土器、炻器、陶器、磁器となり、国により定義は微妙に異なります。陶器と磁器に限って比較するのであれば」と野村さんは前置きして、語り始めた。

「両者の違いは土と釉、それらに適した焼成温度にあります。陶器に用いる土は基本的にやや鉄分が多く、焼くと赤みを帯びた色となります。釉は各種の金属成分を加えて

京阪中之島線開通までの静けさを味わおうと、土佐堀川沿いを歩いて大阪市中央公会堂前の広場に出た。いつもなら公会堂に入るか、バラ園を訪ねるのだが、今日は未踏の東洋陶磁美術館を訪ねることにした。

笑顔で迎えてくれたの

は、主任学芸員の野村恵子さんであった。これまで実用的陶磁器には親しみをこめていたが、鑑賞用美術工芸品には構えて

次

の質問は陶磁器のル